

第3回 帯広市都市計画マスタープラン検討専門部会 会議録 要旨

日時：平成30年10月24日（水）15：00～17：00

場所：帯広市役所 10階 第5B会議室

■会議次第

- 1 開会
- 2 都市建設部長あいさつ
- 3 専門部会長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 帯広市の現況と将来予測等について
 - (2) その他
- 5 閉会

■出席者

委員：5名 事務局：9名 傍聴者：1名

■委員の意見等

○帯広市の現況と将来予測等について

（委員からの意見等）

▶自動車への過度な依存、公共交通のあり方について

- ・自動車に依存している実態があり、今後、スーパーなどが撤退することが増えてきた際や高齢になった際などに不安がある。
- ・通勤や通学は、バスの利用を促進していくべきだと考えるが、近年は、高校生も親に車による送迎などが増えてきており、バスの利用が少なくなっている実態がある。
- ・バスの利用を促進するため、スマートフォンで運行状況等がわかるサービスなども進められている。
- ・冬期間のバスの待ち合い環境の改善のため、バス停に小屋などがあると良い。
- ・近年は、郵便局内でバスの待ち合いをできるようにするなどの連携を行っている事例もある。
- ・帯広厚生病院が移転することにより、帯広厚生病院を経由しない路線ができる。地域によっては、乗り継ぎなどの対応が必要になる。
- ・バス事業者と沿線の医療施設や福祉施設が緊密に連携すると利便性が高まるのではないかと。
- ・元気で動ける間は良いが、将来的には自動車を運転できなくなることもあるため、公共交通が重要になってくる。移動式スーパーなどの方法もあるが、生活する上では移動手段を確保することが鍵になってくる。
- ・「公共交通を利用することが格好いい！」と思われるようなイメージ作りも大切である。
- ・特定のバス路線について、例えば、待ち合い環境が特に充実していたり、沿線の商業施設等との連携が密に図られているなど、モデル的に「公共交通充足エリア」のような場所をつくってみてはどうか。そのためには、沿線周辺に一定程度の住民がいることが必要であるため、人口の集中と路線などの選択なども対応も必要になってくる。

▶公園の有効活用や行政負担の少ない活用方法など考えられることについて

- ・帯広市の公園は、花火やバーベキューなど色々なことができる。また、冬期間に関しては、雪捨てなどの場所に活用されている事例もある。
- ・他都市の事例でコーヒー店と公園がコラボレーションして、賑わっている事例がある。
- ・車への依存とも関連するが、公園には駐車場がほとんど無いので、利用しにくいという面もある。
- ・公園をカーシェアリングの車の待機場所にするなどの活用をしてみてもどうか。
- ・高齢者が公園を基点に花壇の整備や子供の見守り活動などに取り組んでいる事例がある。
- ・町内会などが作業や経費を負担するなど、行政負担を伴わない利活用の方法があるのではないか。
- ・公園は、公民連携の取り組みを進めやすい場所である。

▶若い世代について

- ・血液が循環するように、毎年新しい若者が街に入ってくる。そうした意味でも街に大学がある意義は大きい。
- ・車の依存とも関連するかもしれないが、大学生がアルバイトするために車を買って、それを維持するためにアルバイトをしているという実態がある。特に十勝は、農業関連のアルバイトが多いため、車が必要になってくる。
- ・大学生を視点に考えると、基本的には 4 年間という制約があるため、色々な試みを持続していく際に難しさがある。
- ・若者や子育て世代を支援していくことが重要である。
- ・「頑張りたい！稼ぎたい！」という若者は多い。一生懸命働いて、稼いで消費する。そういう循環で地域経済は活性化していく。
- ・商工会議所などでも、若い世代や年齢を問わず事業支援などを行っている。
- ・中心市街地の活性化を考える際に、若者のチャレンジを促すことが重要である。
- ・全国的によく聞かれる課題として、若者のチャレンジを無理だと決め付けることや地権者が場所の提供を拒否することなどがある。そういった際に、志の高い不動産事業者などが介在し、地権者と若者を取り持つことなどが考えられる。
- ・近年、若者はどういうところに集まる傾向があるのか。スポーツ施設などに集まっている印象がある。
- ・ネット環境が充実してきているため、買い物などもネットでできるため、不自由な面はなくなっている。その一方で、中心街に行くことも少なくなっているのではないか。

▶魅力ある場所づくりについて

- ・他都市にある本屋で、例えば、料理本の横にキッチンがあって、そこで料理を教えたり、旅行雑誌の横に旅行代理店があるなど、ユニークな本屋を実現している事例がある。
- ・図書館に本を集めるのではなく、各地域に分館のような場所を設けて、本を分散している事例もある。
- ・帯広畜産大学のカフェは、大学の卒業者が経営しており、そういう面でも話題性を有している事例もある。
- ・他都市の事例で、公共交通を使うと色々な特典を設けている事例がある。例えば、花束を持っていると無料だとか、子供や老人が同伴していると無料になる。また、自転車に乗せることができるサービスもある。

- ・他都市の事例で、駅前に行政と民間事業者で庭づくり教室を行っている事例がある。そこが、憩いの場所であったり教育の場所であるなど色々な活用がされている。
- ・庭造りが得意な市民を市が認定し、市が介在する形で園芸の仕事などを請け負える仕組みを設けている事例がある。
- ・帯広市に暮らしていてよかったと思える場所や行きたい場所など、住民がその地域で暮らし続けたいと思える“街の居間”と呼べるような場所があることが重要である。
- ・“街の居間”となるべき場所には、病院やスーパーなどがあるかもしれない。「こんなものがあつたらいいね。」という声を拾っていくのが大事である。
- ・気軽に集まって会話を楽しめるような場所が、例えば、バス停の近くなどにあると良い。
- ・早朝、高齢者が公園で井戸端会議をする光景をよく目にする。
- ・街路樹の剪定の方法を統一することで、街並みに統一感が生まれる。
- ・専門部会で、実際に街を歩きながら、ここはこうしたら使いやすくなるとか、良くなるなどの議論をしてみるのも良い。

■その他

- ・次回は、１１月２７日（火）１５：００～ の日時に開催することに決定した。

以上